

# 平成29年度 授業改善推進プラン

- ①課題を明らかにするための根拠となるデータ
- ②分析と課題
- ③「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策
- ④学年別の指導の工夫・改善策

### 目指す授業

- \* 発見・気づきと感動のある授業
- \* 感じる・考える・伝え合い深め合うことを楽しむ授業
- \* 知りたい・わかりたい・できるようにになりたいと思わせる授業



### 見方や考え方

国語科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

- 好奇心、探究心、向上心、克己心、道義心、人情味、思いやり、優しさ、慈悲の心、博愛精神 など

### 課題を明らかにするための根拠となるデータ

#### ① H28 都学力調査結果 観点別調査結果全都平均の正答率との比較 (2 学年)

関心・意欲・態度	思考・判断・表現 (国語: 話す・聞く)	技能 (国語: 書く)	知識・理解/国語: 言語
1.2	6.9	<b>-6.9</b>	4.3

#### ② H28 学年評定達成率

関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	読む	知識・理解・技能
65%	75%	<b>55%</b>	64%	58%

#### ③ 長年の勘 (= 経験の蓄積) に基づいた **日常の生徒観察**

授業等の言動、会話・対話・討論、作文・プリント・ノート等の状況や内容、小テスト等

### 分析コメント

練習や暗記など課題として指示された機械的な作業には取り組めるが、自ら興味関心や意欲をもって学習に取り組む生徒はそう多くはないことが読み取れる。ある程度の知識や技能は有しているので、書かれてある文章は一応読むし、試験問題には取り組むが、自身の生き方や他者の人生・社会に対する興味関心や伝えたい・わかり合いたい・社会と関わっていきたいという意欲は高くなく、従って、表現意欲 (聞く・話す・書く意欲) も高くはない。

学習の目的を、「明示された事項を記憶し、それを試験で再現して高得点をあげる」ととらえている生徒も多く、その作業に長けている生徒は自他ともに「頭が良い」と評価され、それが不得意な生徒は「頭が悪い」とされて、学習意欲を高められずにいる。いずれにせよ、全ての生徒に学ぶ楽しさをより多く味わわせ、自ら学ぶ意欲を高めさせる必要がある。



### <課題>

自分を取り巻く多種多様の事項に興味関心を向けさせ、それらについて、自身の問題として深く考える経験を重ねさせること。そして、それらを互いに伝え合って思いを巡らせ合い、考えを深め合うことを通じて、学ぶ喜び (= 生きる喜び) を感じる機会を増やし、より深く学ぼう (= より良く生きよう) という意欲を持たせることが最も重要な課題である。



### 「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

発問や語りかけを更に工夫し、生徒の心を揺さぶり、考えることの楽しさを実感させることを通じて、生徒の学ぶ意欲を引き出し、自ら思考し、判断し、表現し、相互に尊重し合い高め合う意欲にあふれた生徒を育成しうる指導を更に工夫していく。

直ちに効果が期待でき得る改善策は残念ながら考え出せないでいるが、常に、生徒の反応を注意深く観察しながら、生徒の気づきを促し、思考を深め、学ぶ (感じる、考える) 楽しさを味わわせ、学習意欲を高める指導を研究し実践していきたい。

氏名 ( 霜越 恒子 ・ 白土 潤 ) 担当教科 ( 数学 )

目指す授業

数学の楽しさやよさを実感して、  
よりよい考えを見いだせる数学的  
活動の充実



見方や  
考え方

数学科で「思考力・判断力・表現  
力等を育成する」ために目指す資  
質・能力

○数学を活用して論理的に考察  
し、数学的な表現を用いて簡潔・  
明瞭・的確に表現する力

課題を明らかにするための根拠となるデータ (2017.8.22 現在)

東京都の平均正答率との比較「平成 29 年度・28 年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査」の観点別の調査結果を分析

2 年次	AとB の合計	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力		
平成 29 年度	67.1	73.3	100	59.6	73.1	74.4	51.0	48.7	51.3	53.8
東京都	53.3	60.2	85.7	48.1	59.6	61.3	35.3	29.3	37.6	36.8
比較	13.8	13.1	14.3	11.5	13.5	13.1	15.7	19.4	13.7	17.0
平成 28 年度	62.9	66.2	94.2	42.3	68.3	69.2	50.0	53.8	48.1	48.1
東京都	56.4	61.5	89.5	43.2	63.0	61.1	36.7	37.1	45.1	27.7
比較	6.5	4.7	4.7	▲0.9	5.3	8.1	13.3	16.7	3.0	20.4

文京区の平均正答率との比較「平成 29 年度・平成 28 年度・27 年度 区学力調査」の観点別・基礎・活用の調査結果を分析

1 年次	全体	観点別				基礎・活用			
		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	基本	活用		
							思考・判断力	表現力	
平成 29 年度	75.2	63.2	69.9	79.4	68.9	75.8	71.7	78.3	58.7
文京区	75.4	67.3	70.5	79.0	70.7	75.6	74.1	83.7	55.0
比較	▲0.2	▲4.1	▲7.1	0.4	▲1.8	0.2	▲2.4	▲5.4	3.7
平成 28 年度	79.2	73.6	75.5	82.7	74.2	79.3	78.8	86.4	63.6
文京区	73.6	65.0	68.5	77.5	69.5	73.7	72.9	83.1	52.5
比較	5.6	8.6	7.0	5.2	4.7	5.6	5.9	3.3	11.1
平成 27 年度	65.6	61.2	64.9	68.4	60.5	64.4	71.8	78.8	57.7
文京区	74.5	67.0	69.6	78.2	70.2	74.5	74.1	83.6	55.0
比較	▲8.9	▲5.8	▲4.7	▲9.8	▲9.7	▲10.1	▲2.3	▲4.8	2.7

分析コメント

各調査結果の「思考・判断・表現」については、東京都または文京区の平均正答率と比べ下回っている。「読み取る力」は、東京都の平均正答率と比べ上回っているが、他観点と比較すると大幅に劣っている。「数学的な見方・考え方」が不十分である。



<課題>

長文の内容把握や情報を整理して判断できるようにする。また、文章や図、表、グラフなどから必要な情報を正確に読み取り、解釈しながら問題を解決する読み解く力をつける。



「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

生徒自らが問題の解決に向けて見通しをもち、論理的に説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの数学的活動を設ける。

### 目指す授業

外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、他者を尊重した対話的な学びの中で、既習の文法や語彙を使って自分の考えや意見を発信したり評価したりし、実際のコミュニケーションにおいて運用する力を伸ばすことのできる授業。



見方や  
考え方

英語科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

○生徒同士やJTE・ALTとの対話、発表原稿の作成やスピーチを通した、特に「話すこと」「書くこと」の能力

### 課題を明らかにするための根拠となるデータ

#### H28年度 都学力調査

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現 (国語:話す・聞く) (英語:外国語表現)	技能 (国語:書く) (英語:外国語理解)	知識・理解 国語:言語
国語	1.2	6.9	-6.9	4.3
社会	1.1	-6.9	-1.0	6.8
数学	4.7	-0.9	5.3	8.1
理科	5.8	-3.9	13.4	3.8
英語	-2.8	4.9	5.4	15.3

#### H28年度 3学期 生徒アンケートの推移



### 分析コメント

- ・H28年度 都学力調査では本校生徒の英語学習への関心・意欲・態度が都平均と比べて-2.8と下回っていることが分かる。このことは本校で実施した生徒アンケート7「この教科の授業では、自分の考えを深めることができますか」にも関係していると推察する。
- また生徒アンケート9「授業初めの目標の提示」、生徒アンケート10「授業終盤での振り返り活動」が十分に行われていないと感じる生徒が比較的に多いことも一因として考えられる。



### <課題>

- ・学んだ内容を定着させるための手立てとして、導入時の目標の提示・振り返りの活動の徹底
- ・「学ぶ楽しさ」「深い学び」の体験



### 「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

- 興味・関心を高める導入の工夫
- 応用的な活用（具体的なコミュニケーション）の場の設定
- 授業のねらい（めあて・目標）を明確にする工夫
- 個々の学習の振り返りの時間の設定

氏名（武藤 章）担当教科（社会科）

目指す授業

社会的事象に興味関心をもち、その意味を考えることができ、自分なりの評価や解決方法を探れる授業

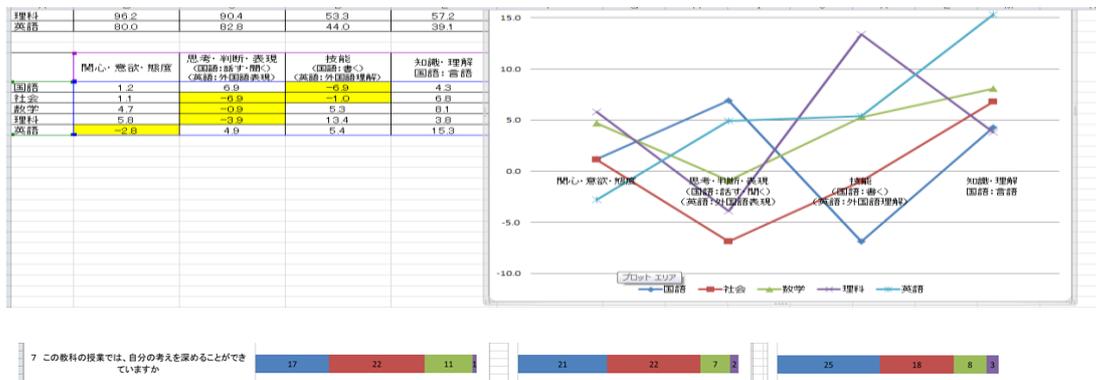


見方や考え方

（社会）科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

- 社会的事象への興味関心
- データ収集・解析能力
- 社会的事象に関する基礎知識の習得能力

課題を明らかにするための根拠となるデータ



分析コメント

学力調査結果によると社会科における「思考・判断・表現」の項目が全都平均より大きく隔たっている。また、「技能」も平均以下である。

さらに授業でも20%の生徒が考えを深められない授業だと感じている。



<課題>

生徒に思考・判断を促す場面を取り入れる授業が必要である。

そのような発問はしているのだが、それに時間をとって深められていない実情がある。



「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

○思考・判断を促す場面・発問を1時間の授業の中で必ず取る。

○上記活動を深めるために時間をとる、ワークシートを用意する、生徒に話し合いをさせる、シミュレーションゲームを行う等の工夫をする。

目指す授業

対話的な学びの中で、自ら思考したことをじっくりと吟味して練り直すことを通し、思考した内容を再構成した上での確に表現する学習場面が設定されている授業

見方や考え方

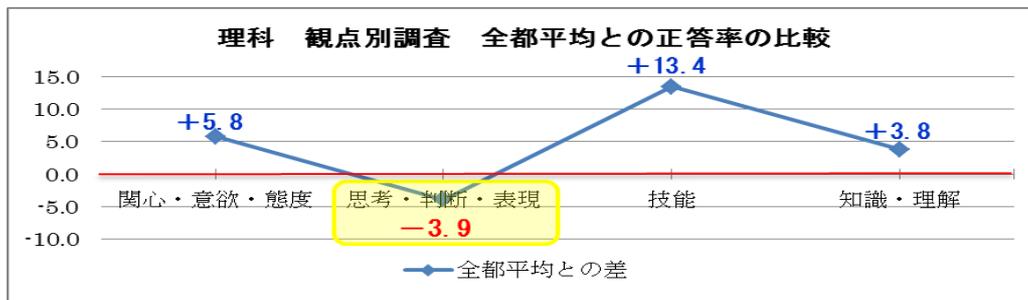
（ 理 ）科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

○観察、実験などを行い、科学的に探究する力

※科学的な探究・・・自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどする探究方法

課題を明らかにするための根拠となるデータ

1 平成28年度児童・生徒の学力向上を図るための調査（東京都教育委員会 現3年生 平成28年6月実施）

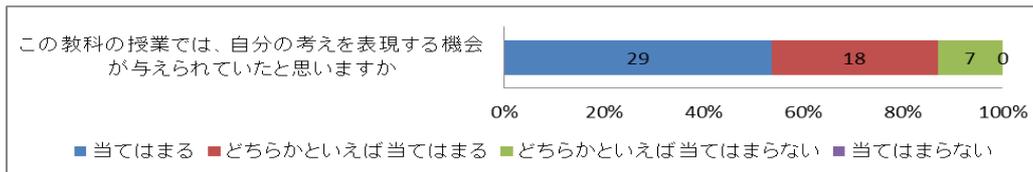


2 平成28年度学年末 観点別学習状況評価（現2年生・3年生43名中）

「知識」「技能」より第2観点「科学的思考」の評価の方が低い生徒・・・6名

「科学的思考」の評価が「C」の生徒・・・8名 計14名が「科学的思考」に課題

3 平成28年度生徒質問紙調査（全校生徒54名中 ※グラフの数字は人数）



分析コメント

○平成28年度都の学力調査（現3年生対象）から全都平均と比較すると「思考・判断・表現」の観点で表される学力に課題がある。また、今年度の在籍生徒（現2・3年生）の学年末の観点別学習状況評価においても14名（33%）に課題が見られる。  
○授業に関する生徒質問紙調査では、7名（13%）の生徒が「自らの考えを表現する機会」が「どちらかといえば与えられていない」と回答している。

<課題>

○思考する時間や場の設定はできていると考えられるが、思考したことを表現する機会の充実に課題があると考えられる。  
○思考したことを更に深めるような学習場面の設定が必要ではないか。

「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

○対話的な学びの中で他人の意見を聞いた後に、自分の考えをもう一度練り直す時間の設定  
（自らの思考を再構成する時間の設定）  
○思考したことを自分の言葉で説明した後に、文章での確に表現する場の設定  
（吟味して表現する場の設定）

氏名（ 加藤 涼子 ） 担当教科（ 音楽 ）

目指す授業

- 多種多様な音楽に触れさせ、音楽体験を通して生徒の音楽の世界を豊かにする授業。
- 音楽的な表現技術を習得・向上させ、生徒同士が高め合う授業。



見方や  
考え方

- 音楽科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力
- 楽曲の特徴を捉え、思いや意図をもって音楽的に表現すること。
  - 楽曲を聴き、音楽的に分析し、特徴やよさを言葉で表現すること。

課題を明らかにするための根拠となるデータ

- ・平成28年度 生徒授業アンケートの結果より、あまり改善が見られなかった項目（どちらかといえば当てはまらない・当てはまらないの合計数で判断した。）

項目	7月	12月	3月
6 この教科の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができていると思いますか	13	20	14
10 この教科の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。	18	21	18
11 この教科の授業では、授業で扱うノートやプリント等に学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	16	19	18

分析コメント

教師からの問いかけに対しては、積極的に考えることができていると思われるが、他の生徒の考えを聞き、それを受けて考えを深める機会がより必要であると考えられる。また、項目10、11については、電子黒板を活用して今年度は行っているが、より生徒に意識付けできるようにワークシートの工夫が必要である。また、他の項目も含め、12月のアンケート結果が7月、3月に比べ、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」の数値が増加している傾向が見られる。



<課題>

- 技術向上を目指した実技練習と思考を深める場面のメリハリ、バランス
- 生徒同士が考えを話し、共有したり、考えを深める場面の設定



「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

- 自分の考えを言葉にし、それを共有する場面を多く設ける。
- グループ活動を單元ごとに取り入れ、生徒同士で高め合う場面を設ける。
- 「めあて」「授業の流れ」「まとめ」をワークシートや電子黒板を活用してわかりやすく提示する。

氏名（ 森下法樹 ） 担当教科（技術科）

目指す授業

○体験と対話による学び合いを重視し、学んだ技術を評価し活用する授業。



見方や  
考え方

（技術）科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力  
○解決すべき課題を設定する力、条件を踏まえて構想し具体化する力、改善・修正する力

課題を明らかにするための根拠となるデータ

・平成 28 年度 生徒授業アンケートの結果より、あまり改善が見られなかった項目（どちらかといえば当てはまらない・当てはまらないの合計数で判断した。）

項目	7月	12月	3月
10 この教科の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動を良く行っていたと思いますか。	17	13	15
11 この教科の授業では、授業で扱うノートやプリント等に学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか	12	12	10
13 この教科の授業では、生徒の間で学び合う活動をよく行っていたと思いますか	13	18	11

分析コメント

上記の結果から、学習内容を振り返る活動や学習の目標とまとめを生徒自身が書く活動が、年間通して一定数の生徒が満足していない。また、12月は学び合い活動も18名の生徒が満足していない。



<課題>

- 自分自身の授業反省からも生徒アンケートの分析からも、作業に追われている時期の振り返り活動が不十分である。
- 振り返り活動と学び合う活動をバランスよく行うことにも留意する必要がある。



「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

- 作業や体験学習のねらいをより一層明確にする。作業の精選による、時間配分の見直しをする。それによって、振り返り活動の時間を確保する。
- ワークシートの内容を工夫改善することで、振り返り活動の内容を充実させる。

目指す授業

生徒自身が、自分のもっている知識を活用し、仲間と協力し自分の考えを伝え、他人の考えを参考にしながら、自己分析し、主体的に改善に取り組む授業。



見方や考え方

保健体育科で「思考力・判断力・表現力等を育成する」ために目指す資質・能力

○運動や健康について自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。

課題を明らかにするための根拠となるデータ

- 平成 28 年度 生徒授業アンケートの結果より、あまり改善が見られなかった項目（どちらかといえば当てはまらない・当てはまらないの合計数で判断した。）

項目	7月	12月	3月
6 この教科の授業では、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができていると思いますか	9	9	10
10 この教科の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動を良く行っていたと思いますか。	10	9	9
12 この教科の授業では、自分の考えを表現する機会が与えられていたと思いますか。	5	7	6

分析コメント

- 運動の成り立ちやしくみの理解が不足していること、運動を分析する力が不足していることにより、主体的に取り組むことができるが、協働的な学習においては、自分の考えが確立できず学習を深めることができなかつたと考えられる。また、学習カードを用いて、学習の内容の振り返りをおこなってきたが、改善されておらず学習カードの活用の仕方が定着していないためだと考えられる。



<課題>

運動の成り立ちやしくみが理解できる指導の工夫（学習形態・学習カード）することで、運動を分析する力を身に付け、自分の考えを表現する機会を増やす。



「思考力・判断力・表現力」を育成するための教科指導の工夫・改善策

- グループ学習で、自分の考えの発表と他人の考えを聞く時間をできるだけ多くの領域で設定していく。
- 他人の考えを聞いた上で、本時の振り返りとともに学習カードに記録できるよう工夫していく。

## 平成29年度授業改善推進プラン 学年別の指導の工夫・改善策

	1年	2年	3年
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことへの抵抗感を無くし、関心を高めるため、行事の振り返りなど日常的に書く活動を行う。</li> <li>・単元の最初と最後に感想を書き、内容に即した自分の意見を書く活動を定着させる。書いた文章を交流させることで、他人のよいところを学び、自分の文章の振り返りを行う。そこから文章の読解、語彙の拡充につなげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の読解を基にした創作や調べ学習を行い、自ら課題を設定して表現する活動を増やす。</li> <li>・意見文や要約文など客観的な文章、説得力のある文章が書けるようになることを目標とする。</li> <li>・様々な文章を読み、読み取る力をつけると同時に、語彙を増やすように働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞文、意見文、自由創作など、幅広い文章を書く活動を行い、それぞれの目的に沿った文章が書けるようになることを目標とし、活動を行う。</li> <li>・古典作品や近代の文豪の作品、評論などより様々なジャンルの文章に触れ、読み取る力をつけると同時に、読解を自分の表現や語彙を増やすことにつなげられるような取り組みを行う。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒全員が課題に対して考えられるような発問、発表形式を取り入れる。</li> <li>・理解度を深めるため、記述を答えとする課題を授業、小テスト等で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数を意識した教師と生徒との対話により課題を深める授業を作る。</li> <li>・理解度を深めるため、記述を答えとする課題を授業、小テスト等で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民の分野で全授業に生徒同士の意見交換、討論の場を設ける。</li> <li>・理解度を深めるため、記述を答えとする課題を授業、小テスト等で実施する。</li> </ul>
数学	<p>言葉や図、表、グラフなどを用いて、自分の考えを表現できるように、書く活動を習慣化する。</p>	<p>論理的に考え、表現し、解決するために、言葉で伝え学び合える活動を行う。</p>	<p>見通しをもって、論理的に説明し、互いの考えを伝え合い、よりよい考えを見いだせる活動を行う。</p>
理科	<p>実験観察等の学習の前に予想や実験計画等を思考させ、学習後に結果と考察を自らの力で表現する場面を意図的に設定する。</p>	<p>実験観察等の学習時に自らの考えを伝えて学級内で共有させ、よりの確な表現を意識して行う学習場面を設定する。</p>	<p>実験観察等の学習後に、実験前の自らの考えを振り返り、結果と合わせて自らの考えを再構成する学習場面を設定する。</p>
英語	<p>授業のねらいを明確にし、理解した上で活動に取り組みませ、学習に対する意欲の向上と基礎・基本の定着を図る。定期的な単語テストやスペリングコンテストを通して、語彙力・熟語力の強化を図る。音と音のつながりや強弱を意識した発音練習を行い、英文を読むことに慣れさせる。</p>	<p>ペアやグループなどの協同学習を通して、互いに気づき、教え合い、考えを深める時間を多く設ける。スピーチやスキットの発表を行い、自分の考えや気持ちを英語で表現する力を養う。音と音のつながりや強弱を意識した発音練習を行い、英語らしく発音できるようにする。</p>	<p>個で学習に向き合う時間と、ペアやグループなど生徒同士でコミュニケーションを取り理解を深める時間のメリハリをつける。長文を読んだり、聞いたりして、必要な情報を読み取る力の強化を図る。家庭学習ノートの活用を引き続き行い、基礎学力の定着と応用力を身に付けさせる。</p>

音楽	<p>授業のねらい・流れを明確に提示すると共に、授業のまとめで生徒自身が振り返る時間を設定することで、授業に対する意欲の向上を図る。また、振り返りで達成できた点と課題を考えることで思いや意図をもって表現しようとする力の向上を図る。</p>	<p>個人の意見をグループや全体で共有し、さらに考えを深め、それを表現するためにどんな音楽的工夫ができるかを話し合う時間を設定することで、楽曲の特徴を捉え、思いや意図をもって音楽的に表現する力の向上を図る。</p>	<p>個人の意見をグループや全体で共有し、さらに考えを深め、それを表現するためにどんな音楽的工夫ができるかを話し合う時間を設定することで、楽曲の特徴を捉え、思いや意図をもって音楽的に表現する力の向上を図る。また、音楽の構造や諸要素、用語を理解することで、分析し、特徴やよさを言葉で表現する力の向上を図る。</p>
保健体育	<p>授業のねらいを明確にする工夫（提示方法・学習カード）することにより、授業に対する意欲の向上を図る。グループ学習を多く設定し、自分の考えの発表や他人の考えを聞く時間を多く設定していくことで、知識・理解を深めさせる。</p>	<p>グループ学習を多く設定し、教え合う活動を通して、授業に対する意欲を高め、技術の向上を図るとともに自分の考えの発表や他人の考えを聞く時間を多く設定していくことで、知識・理解を深めさせる。</p>	<p>グループ学習を多く設定し、教え合う活動を通して、授業に対する意欲を高め、技術の向上を図る。授業の振り返り活動を充実させるために、学習カードの記入の時間を確保し理解を深めさせる。</p>
技術	<p>ペア学習を中心に学び合い活動を進めていく。課題解決のための設計や、作業のふりかえりと次への修正を行うことにより、解決をすべき課題を設定する力を身につけさせる。</p>	<p>3人グループで話し合い活動をしながらか作業を進めていく。さらに、他のグループとの比較によって試行錯誤を繰り返していく。そのことにより、課題の解決策を条件を踏まえて構想（設計・計画）する力を身につけさせる。</p>	<p>プログラムによる計測・制御を、各自工夫しながら作業をすすめる。作業の早い生徒の考えを取り入れながら改善・修正していく。課題の解決結果及び解決過程を評価し、改善・修正する力を身につけさせる。</p>